

平成 27 年 8 月 31 日	病虫害発生予報 9 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

平成 27 年度茨城県農薬危害防止運動期間中 (6/15～9/14)
～防護装備(マスク・保護メガネ・防除衣)を正しく着用しましょう～

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
大豆：カメムシ類	1
サツマイモ：チョウ目幼虫(ナカジロシタバ等)	1
共通害虫：オオタバコガ	2
【その他の病虫害】	
大豆, ナシ, ブドウ, 果樹共通, 秋冬ハクサイ, 秋冬ネギ, 夏秋ナス, 共通害虫	3
II. 今月の気象予報	5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病虫害防除所 Tel :029-227-2445
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報
【注意すべき病害虫】

大豆

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、吸実性カメムシ類（幼虫及び成虫）の寄生虫数(本年値 0.3 頭, 平年値 0.5 頭 (25 株あたり)), 発生地点率(本年値 23%, 平年値 25%)ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類の防除適期は莢伸長期～子実肥大中期(粒の長径が 0.5～1cm 程度)頃である。発生の多い圃場では、莢が伸長する頃から 7～10 日ごとに 3 回以上防除する。
- ② カメムシ類の成虫は子実を加害しながら、葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。
- ③ 薬剤散布の際は、薬液が葉だけでなく莢によくかかるよう注意する。特に、圃場の周縁部はカメムシ類の生息密度が高い傾向にあるため、丁寧に散布する。

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害葉率は平年よりやや少なく(本年値 9.8%, 平年値 20.7%), 発生地点率は平年並(本年値 100%, 平年値 99%)である。
- ② 8月下旬現在、ナカジロシタバの第三世代幼虫によると思われるつる先の被害を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① ナカジロシタバは、第三世代幼虫の被害が最も大きい。老齢幼虫になると食害量が多くなるので、若齢～中齢幼虫の時期（丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の 25%程度を食害された葉が目立つ時期）の防除に努める。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏までよくかかるよう丁寧にを行う。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月1日から8月25日までのフェロモントラップへの誘殺数は、水戸市(県予察圃), 笠間市(県予察圃), 鉾田市で平年より多く, 土浦市, 龍ヶ崎市で平年よりやや多く, 筑西市で平年並, 坂東市, 古河市でやや少ない。
- ② 8月下旬現在, 大豆における寄生虫数は平年よりやや多く(本年値 5.6 頭, 過去 5 年平均値 2.6 頭(25 株あたり)), 発生地点率は平年並(本年値 77%, 過去 5 年平均値 65%)である。
- ③ 8月下旬現在, 大豆, ナスでの被害を確認している。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し, 成虫の侵入防止に努める。
- ② 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため, 圃場をよく観察し, 若齢幼虫のうちに防除を行う。なお, 防除適期はフェロモントラップへの誘殺数が増加したときなので, 誘殺状況(病虫害防除所ホームページ)を参考にする。
- ③ 薬剤散布は, 葉裏や株元にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また, 複数回散布する場合は, 薬剤抵抗性の発達を抑えるために, IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を選択する。
- ④ レタスやハクサイ等では, 結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため, 定植時及び結球始期の防除を徹底する。
- ⑤ トマト, ピーマン等では収穫終期まで加害が続くので, 発生しているハウスでは防除を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の 20 日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると、発生が多くなるので注意する。
ナシ	黒星病	発生量：－	8 月下旬現在、葉における発生は平年並～やや少ない。多発した圃場では、秋季防除を徹底する。特に、徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8 月下旬現在、平年よりやや多い発生である。多発している圃場では、秋季、休眠期及び翌春の防除を徹底する。
	ナシヒメシンクイ	発生量：平年並 ～やや少ない	8 月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。早生・中生品種に被害果が目立った場合は、晩生品種を対象に、収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。
ブドウ	べと病	発生量：やや多い	8 月下旬現在、平年並～やや多い発生である。向こう 1 か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。多発した圃場では、収穫後の防除を徹底する。病原菌の越冬を防ぐため、早期に落ちた葉は回収し、適切に処理する。
	褐斑病	発生量：平年並 ～やや多い	8 月下旬現在、平年並の発生である。向こう 1 か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。多発した圃場では、収穫後の防除を徹底する。病原菌の越冬を防ぐため、早期に落ちた葉は回収し、適切に処理する。
	さび病	発生量：平年並	8 月下旬現在、平年並の発生である。多発した圃場では、収穫後の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：－	8 月下旬現在、平年よりやや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため、罹病した果梗の切り残し、結果母枝、巻きひげ等は剪除し、適切に処理する。
果樹共通	果樹カメムシ類	発生量：平年並 ～やや少ない	8 月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
秋冬 ハクサイ	軟腐病	発生量：－	台風等の強風を伴う降雨の後は、防除を徹底する。
秋冬 ネギ	ネギアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
夏 秋 ナス	うどんこ病	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや少ない	8月下旬現在，やや少ない発生である。
共通 害虫	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 8月29日から9月28日)

気象庁 (8月27日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	50	30
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 8月29日(土曜日)から9月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より低い確率50%

<2週目の予報> 9月5日(土曜日)から9月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 9月12日(土曜日)から9月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類※(FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成27年4月28日発表)の防除所レポート参照